

正しい用語と用字

基本語句3100語

東京学芸大学 教授文学博士 阪本一郎監修

41.592
269
C.2

正しい用語と用字

基本語句3100語

東京学芸大学教授 阪本一郎 監修
文学博士

熟語の組み立て・意味・用例
類意語・同意語・反意語・応用

34520/34



基本語句3100語

昭和15年2月20日 初刷

昭和47年4月20日 5刷

定 価 350円

監修者	坂本一郎
著者	今本勝造
発行者	岡 橋 兼 吉
印刷所	大 理 時 報 社

発行所 株式会社 むさし書房

大阪市阿倍野区美芝園1丁目

電話 (06)622 0777(代表)

電 郵 大 阪 10302番

6081—21000—8202

は し が き

○ 先生がたへ

国語科の読解指導においても作文指導においても、生徒の語力の貧しさは大きな障害の一つとなっています。また、その語力の貧しさのために、各教科の学習指導をすすめるうえでも、ひじょうなさしわりがあります。

本書は、小学校高学年から中学生に必要な基本語句三〇〇語を抽出し、そのおのおのについて、読み・熟語の組み立て・意味・用例・同意語・反意語・類意語・応用例を示したものです。そして、次のような要領で、テスト教材としても好適の書です。

テストの方法例

- ① 語句の「読み」と、「意味」またはその語句を使った短文を書く練習。
- ② 「読み」をかなで示して、漢字を書く練習。意味または短文を加えてもよい。
- ③ 語句の反意語または類意語を書く練習。

○ 生徒のみなさんへ

語句を数多く知っていることは、国語科をはじめ各教科の学習を進めるうえで、絶対の強味です。また、各種の入試でも、語句に関する問題が多く出されることはご承知のとおりです。

この本は、あなたがたの各教科の学習から語句の抵抗をとりのぞくために、各種の試験にそなえるために、そして、世の中へ出てからも、自由にゆたかに日本語を使う力をつけるために生まれました。

計画をたてて、分量をきめて、少しずつ確実に身につけていきましょう。

勉強の方法例

- ① 「語句」の欄のほかはかくして、読み、および、意味かまたはその語句を使った短文を口で言ってみる。
- ② 「読み」の欄のほかはかくして、漢字の書き取りの練習をする。
- ③ 「熟語の組み立て」「反意語・類意語」「応用」の欄で、語句の力を養っていく。

語句欄

④ できた語句にはチェックをしていく。最後に全部チェックがつけば、基本語句はすべてあなたのものとなったといえます。

ゴチック体(太い活字)の漢字は教育漢字、明朝体(ふつうの太さの活字)の漢字は教育漢字以外の当用漢字です。

() 内にはその語句の品詞を示しました。

名——名詞 代——代名詞 動——動詞 形——形容詞 形動——形容動詞 副——副詞
連——連体詞 感——感動詞 助——助詞 助動——助動詞 接——接統詞

熟語の組み立て欄

↓ 先の語があとの語を修飾しているもの。

↑ あとの語が先の語を修飾しているもの(動詞のあとに目的語のくるもの)。

＋ 二つの語が対等の関係で合わさって一つの語となったもの。

＝ 意味の似た語の重なったもの。

× 反対、または対立する意味の二語よりなるもの。

() 接尾語、接頭語、付属語のついたもの。

() (述) 主語・述語の関係で結合しているもの。

○ 一語一語の意味と全く別な意味になっているもの。

○ 相反する意味の二語が結合して○を打った方の意味になったもの。

反意語・類意語・同意語欄

反 見出し語句と反対の意味の語句。

類 見出し語句とよく似た意味の語句。

同 見出し語句と同じ意味の語句。

応用欄

見出し語句を用いた熟語や句、見出し語句から転じた他の品詞の用法、類意語とまではいかないが見出し語句に近い意味の語句、見出し語句からすぐ連想される語句など。

＜ 目 次 ＞

あ…………… 1	て…………… 147	ゆ…………… 215
い…………… 6	と…………… 153	よ…………… 218
う…………… 18	な…………… 160	ら…………… 222
え…………… 22	に…………… 164	り…………… 224
お…………… 26	ぬ…………… 166	る…………… 227
か…………… 32	ね…………… 167	れ…………… 227
き…………… 49	の…………… 168	ろ…………… 230
く…………… 64	は…………… 169	わ…………… 232
け…………… 66	ひ…………… 177	
こ…………… 74	ふ…………… 184	
さ…………… 84	へ…………… 193	
し…………… 88	ほ…………… 196	
す…………… 111	ま…………… 202	
せ…………… 113	み…………… 204	
そ…………… 123	む…………… 207	
た…………… 129	め…………… 209	
ち…………… 139	も…………… 211	
つ…………… 145	や…………… 214	

〔あ〕

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	類意語・反意語	応用
アーチ (名)			弓形になった門	大きなアーチをくぐって展覧会場にはいった。	アーチ型	
哀願する (動)	アイガンー	カアシム 哀願	事情をうち明け、なげいて願う	合を助けてくれと哀願した。	哀願する(名)	
哀愁 (名)	アイシニウ	哀愁	かなしみ、心いためること	哀愁をさそうメロディーが流れてきた。	嘆息する(名)	
哀調 (名)	アイチャウ	アツレな 哀調	かなしい調子	彼の歌は哀調をおびている。	哀傷・哀痛 愁傷(類)	哀悼の意を表わす
哀悼 (名)	アイトウ	哀悼	人の死などを悲しみいたむこと	哀悼の意を表す。	哀悼(類)	
愛護 (名)	アイゴ	愛し 愛護	愛しきまゐること	動物愛護の精神をもて。	愛護(類)	
愛好する (動)	アイコウ	愛し 愛好	愛し好く	スポーツを愛好しよう。	愛用する(類)	
愛郷 (名)	アイキョウ	愛する 愛郷	郷土を愛すること	愛郷の心をもとう。	愛郷(類)	
愛着 (名)	アイシヤク (アイチャク)	愛し 愛着	ものを愛し、はなれにくいこと	母校に愛着を覚える。	愛着(類)	
愛唱する (動)	アイショウ	愛し 愛唱	愛しうたう	これはわたしの愛唱する歌です。	愛唱(類)	
あいまいだ (形動)			はっきりしないようす	彼はあいまいな返事をした。	にえきらない (類)	愛唱歌 愛護する
あえく (動)			つかれて息ぎれがする	わたしは、あえきながら山に登った。	あえき(名)	
あえて (副)			おしきって、わりに	わたしはあえて忠告するが、そんな行ないは君の人がらをいやしくするものだよ。	あえてきう	

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	類意語・反意語	応用
あがく (動)	アカジ	別	もがく 収支決算で、支出が収入より多いこと 夜明けがた	もうこうなったら、いくらあがいてもだめだよ。 今月の家計簿は赤字になった。 晩の空を仰げば、月が出ていた。	黒字 (反) あけぼの (類) 黎明 (類)	あがき (名) 赤字財政
晩 (名)	アカツキ					
あからさまだ (形動)			つつみかくさず、はっきりしたようす	あの人はなんてもあからさまに言う人だ。		
悪意 (名)	アクイ	悪い意	悪い心	君の言うことに悪意のないことはひとめる。	悪心 (類) 善意 (反)	
悪評 (名)	アクヒョウ	悪い評	悪い評判 悪く批評すること	彼を悪評する人は、ほとんどいない。	悪名・悪声 (類) 不評・汚名 (反)	悪評が高い
悪辭 (名)	アクヘキ	悪い辭	悪いくせ	悪辭をなおす。	好評 (反) 悪習・悪風 (類)	
悪化する (動)	アッカー	悪く化する	悪くなる	病は急に悪化した。	好転する (反)	
あくせく (副)			せかせかして、ひまのないようす	あくせくと毎日を送る。		
アクセント (名)			一語中、高く強く発音する部分	「はし」の「は」に、アクセントをつける。		イントネーション
あざける (動)			相手をさげすんでわらう	君はよくをあざけたね。	嘲笑する (類)	あざけり (名)
浅瀬 (名)	アサセ	浅い瀬	水の浅い所	浅瀬を渡る。	深瀬 (反)	
あさはかだ (形動)			考えのあさいこと	それはあさはかな考え方だ。		

あさましい(形)	(動)	アザムー	あきれるばかりだ あまりといえはあんまりだ	友は、あさましい姿となつて帰つてきた。	あさましさ あさましげ (名)
欺く	(動)		だます	人を欺く。	詐欺 (名)
あざやかだ	(形動)		はつきりして、美しい	山々は、あざやかに色づいた。	
あさる	(動)		餌をさがす たずねさがす	犬が食べ物をあさっている。	
あざ笑う	(動)	ワラー	あざけり笑う	人をあざ笑つてはいけない。 友をあしざまに批判する。	嘲笑する(嘲) (動)
あしざまに(副)	(副)		悪いように もてなす	わたしは、すげなくあしらわれた。	あしらい(名) 鼻であしらう
あしらう	(動)		まるで・ちようど	山の上から道行く人を見れば、 あたかもありのようだ。	
あたかも(副)	(副)		おしくも	戦友はあたり二十二歳の若さで散った。	
あたら	(副)		上からおさえつける おしちめる	聞き手を圧する力で演説する。 綿を固く圧縮する。	前圧する (動)
圧する	(動)	アッシー	おしたおす	相手を屈服する勢いで試合にのぞむ。	圧制的 (名)
圧縮する	(動)	アツシユク	おしせまる	相手に終始圧迫されている。	
圧倒する	(動)	アツパクー	他の物をおさえつける力 とりもつ・せわをする	勢いは圧力を加えてきた。 君の就職をあつせんしよう。	圧力計
圧力	(名)	アツリメク	逆ることを頼む 注文する	洋服をあつらえる。	あつらえ(名) あつらえむきの
あつせんする	(動)				
あつらえる(動)	(動)				

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	類意語	応用
あどけない(形)			むじやきなようす	幼な子があどけない顔をして眠っている。		あどけなき(名)
あながち(副)			わりに・しいて	あながち君が悪いというわけでもない。		終りに行旧のことばがくる
侮る(動)	アナドー		かるんじ、けいべつする	小敵たりとも侮るな。	軽侮する(類) 軽べつする(類)	侮り(名)
あばく(動)			かくしていることをさぐって世に現わす	君のしたことをあばいてやろうか。	暴露する(類)	
あばらや(名)			荒れはてた家	その人は町はずれのあばらやに住んでいた。		
あまた(副)			数多く	友人あまたある中でも、K君は特に親友だ。		
アマチュア(名)			しろうとものずきな人	アマチュア野球大会を行なう。	プロフェッショナル(反)	
あまつさえ(副)			おまけに	あの人はほくに職を与えてくれ、あまつさえ家まで見つけてくれた。		
あまねく(副)			ずっといきたって	春の日は、野に山にあまねく照っている。		
がんずる(動)	アマー		満足して、それでよいとする	ぼくは決してこの地位に甘んじているものではない。		
あらかじめ(副)			前もって	「あらかじめ注意しておくが、旅行中は、勝手なことをしないように。」		予定
新手(名)	アラテ	新し ↓ 手	戦場でまだ戦わぬ元気な兵士	新手の軍勢がおしよせて来た。		新手の勢

あらわだ(形動)	有り明け(名)	ありか(名)	アルファ(名)	淡い(形)	安易だ(形動)	安価(名)	安閑と(副)	安住(名)	安静(名)	安泰(名)	安置する(動)	安否(名)	安眠(名)	安楽(名)	アンケート(名)
	アーアー			アワー	アンイー	アンカ	アンカン	アンジュウ	アンセイ	アンタイ	アンチー	アンビ	アンミン	アンラク	
					安易	安価	安閑	安住	安静	安泰	安置	安否	安眠	安楽	
かくれることなくよく見えるようす	空に月が残りながら夜の明けること	所在地	ギリシア文字の最初の字いくらか	こくない あっさりしている	やすく、なんでもない	ねだんの安いこと	やすらかに暮すさま ぼおっとしているさま	やすらかに住むこと	おちついて静かなこと	心配なくおだやかなこと	やすらかに置く	やすらかか、そうでないか	やすらかに眠ること	ところやすくて、楽しいこと	調査・世論調査の形式・調査用紙を使用する公開質問
殺意はあらわにうかがえた。	有り明けの月を仰いで家を出る。	彼女の家のありかも知らない私だ。	労組は三万「プラスアルファ」を要求している。	秋の日射しが淡く残っていた。	この問題はそう安易に考えるべきでない。	安価な品物は必ずしも悪質とはいえない。	「これは安閑としておれないぞ。」	ことを、生涯安住の地と決めた。	絶対に安静を要する。	無事安泰を祈る。	仏像を安置する。	友の安否を気づかっている。	父の安眠をさまたげるな。	ああ、安楽な気持だ。	支持する政党のアンケートをとる。
露骨だ(類)		所在(同)	オメガ(反)	濃い(反)	容易だ(類)	高価(類)	安閑(類)	安住(類)	安静(類)	平穏・安泰(類)		安否(類)	安眠(類)	安楽(類)	
	有り明けの月			淡々			絶対安静	安住の地						安楽死	

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	反類意語	応用
アンコール(名)			いったん退場した演奏者や歌手に拍手して再登場をうながしのぞむこと	聴衆は興奮してアンコールを叫んだ。		
暗殺(名)	アンサン	暗↓殺 _ず	やみ打ち	首相が暗殺された。		
暗示(名)	アンジ	暗↓示 _す	はつきり言わずそれとなく示すこと	先生は問題の解き方を暗示された。	暗示(反)	
暗礁(名)	アンショウ	暗↓礁	海水にかくれて見えない岩石	舟は暗礁に乗り上げた。		暗礁に乗り上げる(交渉などがいきづまることが)
暗に(副)	アン		それとなく	このまんがは、暗に政府を攻撃しているものだ。		
暗涙(名)	アンルイ	暗↓涙 _く	人知れず流す涙	わたしはひそかに暗涙にむせんだのであった。		感涙
アンダーライン(名)		アンダー↓ライン	文字などの下に引いた線	「大まなところにアンダーラインを引きなさい。」		サイドライン

[い]

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	反類意語	応用
意(名)	イ		心・思い	意を強くしました。		意に介しない意の如くならず
意義(名)	イギ	意↓義	心・わけから・意味	意義ある人生を送ろう。	無意義	
意味(類)						
無意義(類)						

意志	(名) イシ	意 志	こころざし・おもわく	あの人は意志の強い人だ。	意志強引 意志薄弱
意識	(名) インチ	意 ↓ 識	心の作用のいっさい	意識を失って倒れた。	無意識 (反) 意識不明
意中	(名) イチヨウ	意 ↓ 中	心のうち	意中の人の名を言いなさい。	意向 (類)
意欲	(名) イコク	意 ↓ 欲	こゝろありたいと心で望むこと	意欲的に仕事にとり組む。	意欲的
意図	(名) イト	意 ↓ 図	くわだて・心の中の思い	それは、先生の意図に反することになりはしないか。	意見 (類) 意図的
意匠	(名) イシヨウ	意 ↓ 匠	考え・くふう	意匠をこらした家具が多い。	意匠登録
意表	(名) イヒヨウ	意 ↓ 表	おもいのほか	人の意表に出る。	意外 (類) 意表をつく
威圧する	(動) イアツ	威 ↓ 圧	おどかしすぐめる	あの人は威圧するような話し方をする。	威嚇する 威服する (類) 威圧的
威力	(名) イリコク	威 ↓ 力	他を強制して服従せしめる力	昔の將軍の威力はたいしたものだった。	勢力 (類)
威光	(名) イコウ	威 ↓ 光	いかめしいいきおい	威光四方に及ぶ。	威勢 (類)
威儀	(名) イギ	威 ↓ 儀	正しいたちいふるまい	威儀を正して参列する。	威儀を正す
威厳	(名) イゲン	威 厳	いかめしく、おごそかなこと	あの人はどことなく威厳がある。	威信 (類) 威厳がある
威风	(名) イフウ	威 ↓ 風	威光が他に及ぶありさま	威风あたりをはらう。	威容 (類) 威风凛々
慰安	(名) イアン	慰 ↓ 安	なぐさめ安らかにすること	老人を慰安する会を催した。	慰安会
慰勞	(名) イロウ	慰 ↑ 勞	労苦をねぎらい慰めること	若たちを慰勞する目的でこの会を開いた。	慰勞会
言いがかり (名)	イー		なんとかもんくをつけて非難すること	不良少年に言いがかりをつけられる。	

語句	読み	熟語の組み立て	意味	用例	類意語	応用
言いぐさ (名)	イー		言う文句	「その言いぐさはなんだ。恩知らず。」	言い分 (類)	
言いそびれる (動)	イー		言おうと思っていながら気がひけて口に出せない	お金を返してもらおうと思って行ったが、言いそびれて帰って来た。		
いえども (動)			とはいうものの といっても (文語調)	いくら将軍家といえども、悪い事は悪いのだ。		
い(癒)える (動)			病気がよくなる	彼は病 _レ えて、今では元気に活躍している。		
いかがわしい (形)			うたがわしい 見ぐるしい	いかがわしい薬を売っている。		
いかほど (副)			どれほど (文語調)	「合計いかほどになりましたようか。」		
いがみ合う (動)	ーアー		互いに怒り、言い争う	「君たち、そういがみ合っていないで、もう仲なおしろよ。」		いがみ合い (名)
遺憾だ (形動)	イカン	ノ _コ るウラミ 遺 _レ 憾	残念だ	こんなことになるとは、遺憾に堪えない。	遺恨 (名) (類)	
遺産 (名)	イサン	ノ _コ された 遺 _レ 産	残された財産	父が死んで、多くの遺産をうけついだ。	遺物 (類)	
遺志 (名)	イシ	ノ _コ された 遺 _レ 志	死者生前の意志	父の遺志を受けついで、事業をすすめる。	遺訓・遺業 (類)	
遺児 (名)	イジ	ノ _コ された 遺 _レ 児	親の死んだあとに残された子	遺児が靖国神社に参拝する。	遺族 (類)	
遺書 (名)	イシヨ	ノ _コ された 遺 _レ 書	書きおき	遺書を残して家出する。	遺稿 (類)	
遺跡 (名)	イセキ	ノ _コ された 遺 _レ 跡	家や都のすたれたあと	古代の遺跡をたずねる。	旧跡 (類)	

遺体	(名)	イタイ	遺 ^{ノコ} された体	なきがら	遺体にとりすがって泣く。	遺がい	(類)	
異議	(名)	イギ	異 ^{コト} なる議	他の意見と違った意見	「異議なし。」と口々に言う。	異存・異見	(類)	
異郷	(名)	イキョウ	異 ^{コト} なる郷	他国 国土でない土地	異郷で死ぬ。	異国・異境	(類)	
異彩	(名)	イサイ	異 ^{コト} なつた彩	異なり、きわだったようす	衆人の中で彼の姿は異彩を放っていた。	異域	(類)	
異質	(名)	イシツ	異 ^{コト} なつた質	異なつた性質	異質の物をよりわけける。	異色	(類)	
異性	(名)	イセイ	異 ^{コト} なつた性	男女・めすおすの性の異なるもの	異性ともなかくしよう。	同性	(反)	
異説	(名)	イセツ	異 ^{コト} なる説	ことなる説	これには異説もある。	通説 定説	(反)	
異同	(名)	イドウ	異 ^{コト} なり同	異なること 同じでないこと	二つの間の異同を述べよ。			人事異動
異動	(名)	イドウ	異 ^{コト} なり動	職務や勤務地などのかわること	今回の異動で、彼はS中学校の長になった。			天変地異
異変	(名)	イヘン	異 ^{コト} なる変	いつもに異なつてかわつたこと	天体に異変が生じた。	変事・事変	(類)	
異名	(名)	イミコウ	異 ^{コト} なつた名	本名のほかにある別の名あだな	彼は情深い人で「仏の達さん」の異名をもっていた。	例外	(類)	
異例	(名)	イレイ	異 ^{コト} なる例	前例のないこと	これは異例の事件だ。	経緯	(類)	
いきさつ	(名)			いきがかり 事件のなりゆき	なぜこうなつたか、そのいきさつを語せ。			
憤り	(名)	イキドオー		はらをたてていかる	彼のふるまいに憤りを覚える。	憤慨 憤激	(類)	憤る (動)

語	位	読み	熟語の 組み立て	意	味	用	例	類意語 反意語	応	用
いきなやむ(動)				うまく事が運ばないで戻る		仕事がいきなやんでいる。			いきなやみ (名)	
育成する(動)	(動)	イクセイ	ソッテ 育+成	育て成長させる		りっぱな人に育成する。		養育する(類)		
いくた(副)	(副)			なほど・多く		いくたの例をあげることができ る。		あまた(類)		
異口同音(名)	(名)	イクドウオン	異なる 口から 同じ音 を出す	多くの人が口をそろえて同 じことを言うこと		「わかりました。」と、生徒は異 口同音に答えた。				
いけにえ(名)	(名)			獸を生きながら神にまつる こと・またその獸 ある事のため、名利や生命 をすてること・またその人 息をつぐ・やすむ くつろいで家にいる		アイヌ人がくまをいけにえとし て供える。		ぎせい(類)		
いこ(想)う(動)	(動)			移り行く		けものも、穴の中にいこつてい るだろう。		移動する 移転する(類)		いこい(名)
移行する(動)	(動)	イコウ	クワリ 移+行	移り行く		時代は江戸時代へと移行してい った。		移転する(類)		
以降(名)	(名)	イコウ	ヨリ 以降	それより後		終戦以降、農地は解放されるこ とになった。		爾来・以後 以前(類)		
以心伝心(名)	(名)	インシンデンシン	モッテ 以+心 ツケラ 伝+心	口に表わさずに、心から心 に意向を伝えること		「以心伝心というもので、彼の 気持ちは、よくにすぐわかつた よ。」				
いこじ(名)	(名)			いじをはること		「そういこじになるな。」		意気地(類)		
委細(名)	(名)	イサイ	委+細	くわしく、こまかいこと		委細は追ってお知らせします。				
いささか(副)	(副)			わずか・少しばかり		「わたしもいささか弱りました よ。」				委細面談

いさめる (動)	いさり火 (名)	維持 (名)	礎 (名)	萎縮 (名)	衣装(裳) (名)	委嘱する (動)	移植する (動)	いずこ (代)	いずれ (代)	いずれ (引)	依然 (副)	いそうろう (名)	いそしむ (動)	依存 (名)
	イビ	イジ	インズニ	イシユク	イショウ	イノコク	イシヨク				イゼン			イゾン
		維持		萎縮	衣装	委嘱	移植				依			依存
人にいけないうことを告げ、いましめる	火をとるとき、焦をよせるためにたく火	もちこたえること	建設物の土台 物事の基礎	なえちぢむこと	きもの	たのみまかす	草木をうつし植える	どこ (文語)	なに・たしかにそれと定めかねるものを指す (文語)	近いうちに	もとのまま	他家にとどまてやっかいになつてゐる人	つとめ励む	たよること
父をいさめる。	いさり火がちとちら見える。	現状を維持しよう、いっしょうけんめいだ。	あなたがたの築かれた礎の上に立つて、わたしは進みます。	彼は友人にいじめられて萎縮しているようだ。	よい衣装をお持ちですね。	あなたを図書部委員に委嘱します。	草花を畑に移植する。	友はいすこにありや。	わが母はいすれにおられることやら。	いすれまたお日にかかりましよう。	彼は依然つつ立つたままです。	はくはA君の家に三日間いそうろうを続けた。	自分の仕事にいそしむ。	欧米に依存する。
いさめ (名)	いさり船	維持 (類)	基礎 (同)	縮少 (類)	萎縮 (本米の子)	委任する (類)	いずかた (類)				依然 (類)	精励する (類)	依頼 (類)	
			礎石		衣装方 馬子にも衣装	委嘱状								